

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月17日  
札幌市立もみじ台中学校

## 1 本年度の重点目標

○主体性を大切にする学校	○多様性を認め、受け入れる学校
○学びを楽しむ学校	○笑顔で活力のある学校
1 学ぶ力の育成【知】	2 豊かな心の育成【徳】
3 健やかな体の育成【体】	
4 札幌らしい特色ある学校教育	5 信頼される学校の創造
6 働き方改革の推進	

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	A	学習指導要領の趣旨に則り、各教科、生徒が意欲的に学ぶことができるような授業づくりに取り組んだ。また今年度より定期テストを廃止し、生徒が主体的に継続して学習に取り組めるよう工夫し実践できた。	A	A
	A	生徒が自分の学習後の姿がイメージできるように、学習内容とその評価を生徒と共有しながら授業改善を行った。生徒は学習評価を理解しながら授業に臨んでいる。	A	A
	A	教師は一人一台端末を手段として活用する意識をもち、生徒には端末をツールとして活用することを理解するようにした。端末を活用することで学習意欲が高まった。	A	A
学校関係者評価委員による意見	定期テストの廃止が生徒の学習意欲の向上につながっていると感じる。日常的に実施される単元テストや提出課題のスケジュールを生徒自身で管理する力は今後役に立つものとする。ICTを活用した学習の工夫も積極的に実施されているので今後も継続してほしい。			
豊かな心の育成	A	いじめ防止基本方針を全教職員が理解し、日常的な相談活動、定例のいじめ防止委員会の開催を中心とした迅速かつ組織的な対応を行った。	A	A
	A	教育相談やいじめに関するアンケートなどを通して生徒の悩みや問題について、適切に関わっている。(命を大切にする指導の充実)	A	A
	A	「子どもの声を聴く」ことを重点に、生徒一人一人が大切にされている存在であるという意識をもてるような集団づくりを継続した。自己肯定感の高まりが見られた。	A	A
	A	生徒会役員会が中心となって主体的に活動を行った。ICTを活用した議案審議、各種行事では実行委員会を組織しての活動など、充実した活動になった。	A	A
学校関係者評価委員による意見	いじめ防止に関わる取組がしっかりなされていることがアンケート結果から伝わり今後もいじめ対策を継続してほしい。各種行事を参観した際に、生徒と教職員との関係性が非常に良好であることがうかがえ、たいへん嬉しく思う。			

健やかな体の育成	スポーツをする機会を積極的に確保するとともに、自分の健康に対する意識を高めている。	A	陸上競技大会や5色綱引き大会など、運動する機会を積極的に確保するとともに、健康的な生活に対する意識を高めている。	A	A
	健康的で安全な学校生活のために環境保全と啓発に取り組んでいる。	A	保健だよりを活用し、自らの健康状態を知るとともに健康的な生活を自分たちで調整したり改善したりできるような取組を今後も継続する。	A	A
	性・生命に関する指導を充実させ、自他を尊重する態度を育んでいる。	A	養護教諭による性と命の健康教育講演会や性自認や性の悩みについて考える機会を通して、多様性を受け入れるなど人間尊重の教育を進めた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	陸上競技大会や5色綱引き大会は、今後も継続しスポーツに親しむ機会を確保してほしい。また、小学校と連携しながら取り組める運動等工夫してみてもどうかと考える。養護教諭による講演会は、子どもたちに寄り添う内容でとても好感がもてる。				
札幌らしい特色ある学校教育	ふるさと札幌への思いを込め、雪に親しむ心を培っている。	A	地域人材を活用したクロスカントリースキー学習を通して、雪と共生しようとする心を培う取組を今後も継続する。	A	A
	地球と札幌のよりよい環境を創造しようとする心を培っている	B	各教科等で、持続可能な社会を導くためにはどのような行動が必要かを考える場面を設定した。今後はより教科等横断的な学びの視点を育みたい。	A	A
	知的好奇心をふくらませ、学び続けようとする心を培っている。	A	朝読書の時間、学校司書と連携した図書館環境の整備など、読書に親しみ、知的好奇心を喚起する取組を継続した。	A	A
学校関係者評価委員による意見	ウィンタースポーツに親しむ機会が少なくなっている昨今の状況で、雪に親しむ活動を今後も継続してほしい。また、地域とのつながりも大切にしながら札幌らしい教育を推進してほしい。				
信頼される学校の創造	「開かれた学校」を目指し、教育方針や学校運営上の様々な課題とその解決策について説明、発信に努めている。	A	地域やPTAと互いに信頼し合える関係を築くため、保護者集会や学校HP、すぐーる配信などで学校の様子の発信に努めている。	A	A
	安全な学校生活を送るための十分な対策がなされている。	A	SNSに起因する被害防止講演会、火災・地震を想定した避難訓練等を通し、生徒自ら身を守ろうとする態度を育んでいる。	A	A
	次世代を担う子どもを育成するため、教員の資質・能力の向上に向けた取組を推進している。	A	札幌市の教育が目指す人間像を共有しながら、教育委員会主催の研修講座への積極的な参加を促し、各自研鑽を積むことができる体制づくりをしている。	A	A
学校関係者評価委員による意見	「すぐーる」による連絡は非常に便利だが、多くの配信がされる中で本当に必要な情報が適切に伝わる工夫を望む。教育に関わる状況が日々変化の中で教職員が各自研鑽を積む体制づくりを今後も大切にしてほしい。				

### ◎教育活動に対する学校関係者評価委員からの意見等

札幌市として初めての中学校統合から3年を経過し、来年度からはコミュニティ・スクールの取組も開始される。少子高齢化が進む地域だが、子どもたちの健やかな成長のため、地域の人材活用、小学校との連携など、もみじ台地区の力をうまく活用してほしい。